

令和6年12月6日

保護者 様

白井市立南山中学校
校長 土屋 博之

令和6年度 全国学力・学習状況調査の実施結果について

1 全国学力・学習状況調査について

この調査は、4月17日に行われました。全国の中学校3年生を対象として、調査内容は、①国語、②数学、③質問紙調査（学習意欲、学習環境、生活面等に関する調査）の3種類です。

この調査により、全国、県の結果を見ながら本校の教育活動の成果や課題を見つめなおし、よりよい教育活動に生かすことが期待できます。3年生には個人の結果を返却いたしました。なお、この結果は学校での通知表の評価・評定に入る資料ではありません。全国の結果と比べたり自分の課題を把握したりして、今後の学習に生かしてほしいと思います。

2 教科の結果から

《国語》

今回の調査では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域と問題形式では「短答式」「記述式」において全国・千葉県の平均正答率より高くなっています。登場人物の心情や、筆者の意図について詳しく考えたり、毎時間話し合い活動を設けたりしたことが結果につながったと考えられます。

一方、「情報の扱い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が全国・千葉県の平均正答率より低くなっています。「情報の扱い方に関する事項」では、主に調べ学習の際に、一つの情報だけを切り取るのではなく、複数の情報を比較し、自分の言葉で説明をし、要約する力をつけられるようにしていきたいと考えます。「我が国の言語文化に関する事項」では、行書の特徴について理解できていない生徒が見られました。書字について、関心を持たせたいと思います。

《数学》

今回の調査では、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」すべての領域と問題形式では「選択式」「短答式」「記述式」のすべてにおいて全国・千葉県の平均正答率を上回っています。特に「図形」「データの活用」の領域に関しては、大幅に両平均を上回っています。また問題形式としては、「記述式」が全国平均を大幅に上回っています。

一方、課題としては、「数と式」「関数」の領域が、本校の相対値の中では、低い領域として結果が出ています。このことから、「数と式」「関数」の領域をさらに伸ばすために、「数学的な見方・考え方」を働かせながら、知識及び技能を習得したり、習得した知識及び技能を活用して探求したりするよう導入や教材を工夫し、指導していきたいと思います。

3 学習や生活についての質問結果から

〔学習に関すること〕

学習意欲に関する項目では、今回の質問内容すべての項目で全国平均より意欲的に取り組んでいることがわかりました。特に「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」や「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」の項目で高い数値が見られました。一方、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の項目が、本校の相対値の中では低いものでした。本校では、授業の振り返りを自分の言葉で80字程度にまとめる学習に取り組んでいます。また、ペア学習やグループ学習、ICT機器等を効果的に活用し、生徒同士で考えを共有する授業を進めることで、自分の思いや考えを伝え合うことのできる生徒を育成していきたいと考えています。

〔生活面に関すること〕

「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目から、規則正しい生活習慣が身についている生徒が多いことがわかりました。「友達関係に満足していますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の項目でも満足している生徒の割合が多いことがわかりました。一方、「将来の夢や目標をもっていますか」の項目が、本校の相対値の中では低いものでした。現在3年生はそれぞれの進路に向けて、日々の活動に取り組んでいます。本校の学校教育目標である「新しい時代を切り拓く生徒」の育成をめざし、重点目標である「Action 前に踏み出す」「collaboration 協働する力」「Thinking 考え抜く力」を今後も推進し、充実した生活が送れるように助言・支援を行ってまいります。